

## 川崎医科大学におけるブース形式診療科別説明会の学内開催

和田秀穂, 西村広健, 作田建夫, 長島史明, 庵谷千恵子, 林 宏明  
窪田寿子, 安永 雅, 鳥越晃之, 野田靖文, 小池良和, 福元和彦  
佐野史典, 羽間夕紀子, 久米輝善, 根石陽二, 原田 保

川崎医科大学 学生の進路支援検討小委員

(平成27年10月16日受理)

A booth-type meeting by department held in the Kawasaki Medical School

Hideho WADA, Hirotake NISHIMURA, Takeo SAKUTA, Fumiaki NAGASHIMA,  
Chieko IHORIYA, Hiroaki HAYASHI, Hisako KUBOTA, Masashi YASUNAGA,  
Teruyuki TORIGOE, Yasufumi NODA, Yoshikazu KOIKE, Kazuhiko FUKUMOTO,  
Fuminori SANO, Yukiko HAZAMA, Teruyoshi KUME, Yoji NEISHI,  
Tamotsu HARADA

*Member of Students' Career Support Subcommittee, Kawasaki Medical School,  
577 Matsushima, Kurashiki, Okayama, 701-0192, Japan  
(Received on October 16, 2015)*

### 概 要

川崎医科大学は、中核市の倉敷市内と政令指定都市の岡山市内に二つの附属病院を有している。両病院の卒後臨床研修プログラムは独立しているが、研修は両方の病院の診療科から選択することが可能である。平成27年7月、初めて川崎医科大学学生を対象にした大学附属病院診療科の説明会をブース形式で学内開催した。研修プログラム説明会とは趣を異にし、各診療科の特徴や業務内容を広報することを目的とした。1年生から6年生までの学生が参加し、アンケート調査に回答した52名全員が将来の研修病院の選択に役に立ったと答え、うち27%は非常に役立ったと高い満足度を示した。また、研修医だけで計画した学生向けのミニシンポジウムも同時に開催し、来場した約70%の学生が参加し貴重な情報収集の場となった。次年度以降も改善を加えながら、学生が身近に附属病院スタッフや先輩研修医と交流できるイベントとして育てていきたい。

キーワード：川崎医科大学附属病院, 卒後臨床研修, 研修プログラム, ブース形式,  
診療科別説明会, 医学生

### Abstract

Kawasaki Medical School has one hospital in Kurashiki City, a core city, and another in Okayama City, an ordinance-designated city. These hospitals have independent postgraduate clinical training programs. However, departments of both hospitals can be selected for training. In July 2015, a booth-type meeting regarding Kawasaki Medical School Hospital departments was held for Kawasaki Medical School students for the first time. The intent of the meeting differed from that of other

training program meetings, and its goal was to provide information on the characteristics and tasks of each department. First- to sixth-year students participated in the meeting. All 52 students who responded to a questionnaire survey answered that the meeting was useful in helping them select a hospital for their future training, and 27% of them reported that the meeting was very useful and showed high levels of satisfaction. A mini symposium for students planned only by residents was also held at the same time. About 70% of visiting students participated in the symposium and were given a valuable opportunity to gather information. By making improvements, we will cultivate the meeting as an event in which students can have contact with hospital staff and junior residents from the next year.

**Key words:** Kawasaki Medical School Hospital, Postgraduate clinical training, Training program, Booth-type, Meeting by department, Medical student

## 1. はじめに

平成16年度に新臨床研修制度によって卒後臨床研修の必修化が導入されてすでに12年が経過した<sup>1)</sup>。平成20年になって医師偏在の問題が目されるようになり<sup>2)</sup>、平成21年度の研修医マッチング以降、都市部への研修医の集中を防ぐために都道府県別の募集定員の上限を設定する見直しが行われた。その改正により平成26年度の医師臨床研修マッチング結果では、大都市部のある6都府県（東京、神奈川、愛知、京都、大阪、福岡）を除く道県における内定者の割合は56.5%と、平成16年度の新制度導入以降、過去最大となった<sup>3)</sup>。

しかしながら、新制度導入前は新卒医師の約70%が大学病院の医局に入局していたが<sup>4)</sup>、新制度導入年時では58.8%となり、平成17年度に48.3%にまで減少した以降、現在まで50%以下が続いている。平成26年度マッチングの内定者数でみると大学病院は過去最低の43.7%に減少し、大学以外の臨床研修病院での研修が56.3%を数え、完全に力関係が逆転する事態となった<sup>3)</sup>。

## 2. 背景

臨床研修を開始する研修医の募集に関して、全国の病院が集まって行う医学生向け合同説明

会が各地で開催され、マッチング結果に大きな影響を与えている。川崎医科大学附属病院臨床教育研修センターでも、メディカル・プリンシプル社主催のレジナビフェア<sup>5)</sup>、マイナビ社主催のマイナビRESIDENT FESTIVAL<sup>6)</sup>、岡山医師研修支援機構主催の岡山マッチングプラザ<sup>7)</sup>などに積極的に参加して、研修医募集活動にあたってきた。実際の川崎医科大学附属病院の研修医採用状況は、平成16年度の39名（本学出身38名）から始まり、平成20年度には43名（本学出身41名）と新臨床研修制度以降最も多くの研修医を採用できたものの、その後連続して減少して平成24年度には21名（本学出身18名）となった。翌年度からは増減を繰り返したが、平成27年度採用者は23名（本学出身21名）と過去2番目に少ない人数であった。

このような中、平成27年4月1日に川崎医科大学（以下、本学）学生の進路支援を推進する適切な方策を検討するため、学生の進路支援検討小委員会が設置された。位置付けは学長の諮問機関であり、本学学生の進路に係る意識等について意見や情報を収集し、進路支援を推進するための適切な方策を検討することが業務である。そして目標（効果）は、本学学生の進路支援を推進する適切な方策を講ずることにより、本学附属病院及び附属川崎病院において初期研

修を希望する学生の増加を促進することにある。委員は、委員長1名、副委員長1名を含め合計17名で構成され、全員が本学出身の教員である。目標を達成するために、本学学生を対象にした診療科別説明会を学内開催したので報告する。

### 3. ブース形式診療科別説明会の内容

委員会設置初年度である平成27年7月に、本

学校舎棟7階および8階ラウンジを会場とし、ブース形式の診療科別説明会を開催した。参加希望の診療科を事前に募ったが、各診療科以外にも研修医、クラブのOB、学内ワーキンググループも加わり、計34のブースが出展され、図1のように配置した。各ブースには机(90×90cm幅)、椅子、ホワイトボードを準備し、規定の枠内であればプロジェクターなどの機材を持ち込むことができた。開催日は、

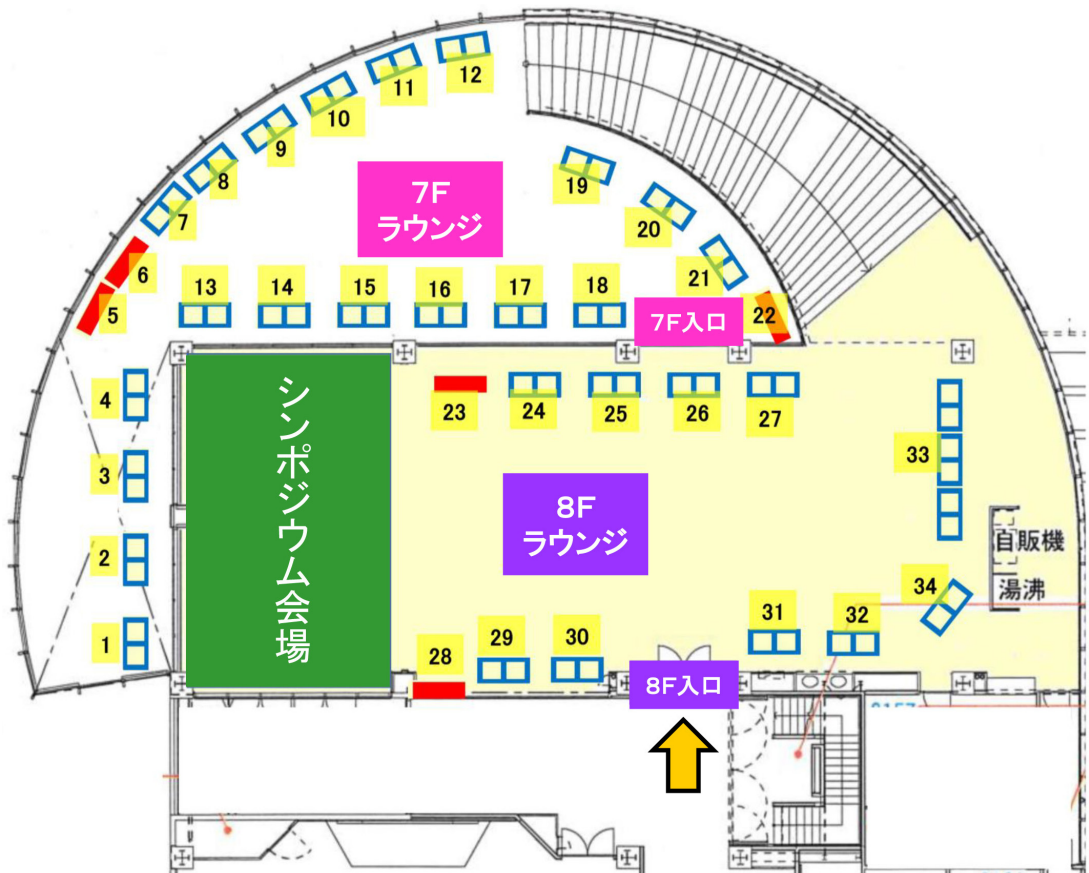


図1 ブース形式診療科別説明会とミニシンポジウム会場の見取り図

7 F ラウンジ：1 血液内科，2 腎臓内科，3 糖尿病・代謝・内分泌内科，4 乳腺甲状腺外科，5 泌尿器科，6 脳神経外科，7 神経内科，8 脳卒中科，9 脳卒中科(川崎病院)，10 リハビリテーション科，11 心療科，12 麻酔・集中治療科，13 放射線科(治療)，14 放射線科(画像診断)，15 呼吸器内科，16 呼吸器外科，17 心臓血管外科，18 循環器内科，19 リウマチ・膠原病科，20 皮膚科，21 消化器外科，22 食道・胃腸内科

8 F ラウンジ：23 ワークライフバランスワーキンググループ，24 病院病理部，25 産婦人科，26 小児科，27 小児外科，28 サッカー部OB，29 研修医1年，30 研修医2年，31 耳鼻咽喉科，32 形成外科・美容外科，33 整形外科，34 救急科



図2 ミニシンポジウム  
A ミニシンポジウム案内ポスター, B 第一部の様子, C 医学生と研修医だけが参加

4年生の期末試験が終了するのを待って、臨床実習中の5年生以外の全ての学年が夏季休業に入った7月25日土曜日に決定し、時間帯は12時30分から15時に設定した。

また、会期中に「本学の附属病院における卒後臨床研修」と題したミニシンポジウムを同時開催した(図2 A)。第一部は自由闊達な討論をすることを目標に掲げ、学生と研修医だけが参加できるプログラムとした(図2 B, C)。第二部は、他の病院で初期あるいは後期研修を経験した指導医が、外から見た本学附属病院研修の長所と短所をつまびらかに語るスタイルをとった。

#### 4. 来場者アンケート調査結果から見たこと

実際の会場の模様を図3に示す。会場でアンケート調査を施行し、52名の学生から回答を得た(回収率90%以上)ので、その結果をまとめ考察を加える。

##### 1) 参加した学生の学年

1年生が9.6%, 2年生が17.3%, 3年生が21.2%, 4年生が7.7%, 5年生が36.5%, 6年生が7.7%であり、臨床実習期間中であった5年生が最も多くを占めた。また、臨床医学教育がまだ始まっていない低学年(1-2年生)の参加者も26.9%と多かったが、4年生の参加が少なかった。4年生は期末試験の最終日であったため、試験終了後直ちに下校した学生が多かったと考えられる。レジナビフェアスプリング2015 in東京<sup>8)</sup>およびレジナビフェア2015 in福岡<sup>9)</sup>での来場者アンケート集計結果によると、研修先について考え始める時期は4年生であると回答したのは、それぞれの会場で69.1%, 73.0%と最も多くを占めている。次年度からは、4年生が参加しやすいような開催時期を考慮していく必要があると思われる。

##### 2) 会場での情報収集は将来の研修病院の選択に役立ったか

全員が役に立ったと回答し、うち27%は非常に役に立ったと高い満足度を示した。今回とほぼ



図3 ブース形式診療科別説明会の模様  
 A会場全体(7F), B心療科, C糖尿病・代謝・内分泌内科, D形成外科, E血液内科,  
 F呼吸器外科, G研修医1年, H脳卒中科, I放射線科(画像診断)の各ブース

同時期の7月に開催されたレジナビフェア2014 in 東京<sup>10)</sup>での来場者アンケートにおける満足度調査と比べても遜色のない高評価であった。

### 3) 目指している医師・志望分野 (図4)

各科専門医を目指す学生が75%を占めた。レジナビフェア2014 in 東京<sup>10)</sup>では、60.7%が各科(臓器)専門医を、16.4%がプライマリ・ケア医を志望すると集計されているが、本学学生のプライマリ・ケア医志望者は8%にとどまり、より各科専門医への指向が高い可能性が示唆される。新たな専門医制度については、専門医の質を高め良質かつ適切な医療を提供することや、専門医認定の標準化および各専門医育成のための研修プログラムの標準化と評価などを目的として、平成26年5月7日に一般社団法人日本専門医機構が正式に発足した<sup>11)</sup>。平成29年度から

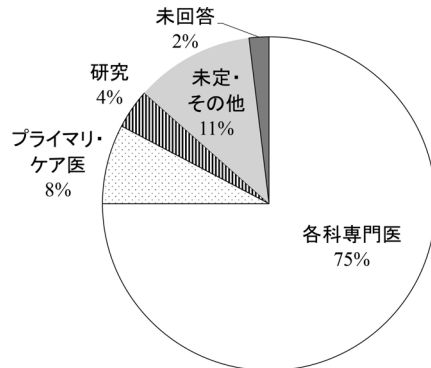


図4 アンケート：あなたが目指している医師・志望分野は何ですか？

新専門医制度が始まることと決定しているが、その目玉の一つが総合診療専門医である。総合診療専門医の概念確立によって、プライマリ・ケア医の位置付けも今後は変わってくると思わ

れる。いずれにしろ、大学病院は、従来の制度によって専門医を取得している指導医が多く、専門医受験指導を長くしてきた歴史がある点で研修病院として有利であるといえる。新専門医制度に見合った本学附属病院の研修プログラムを十分説明し、実績を詳細に見せていくことが重要と思われる。

#### 4) 研修病院を選ぶ基準 (図5)

研修環境(職場の雰囲気)、研修プログラム、指導体制の三項目が上位を占めた反面、処遇(給与等)や症例数を選択する意見は少なかった。この傾向は、レジナビフェアス プリング2015 in東京<sup>8)</sup>、レジナビフェア2015 in福岡<sup>9)</sup>、レジナビフェア2014 in 東京<sup>10)</sup>でのアンケート集計と驚くほど一致していた。また、研修の評価という項目を選ぶ学生がごく少数に限られていたことは意外であった。まだ研修の到達目標が明確になっていない学生にとっては、研修の評価の重要性に気がつきにくかったと解釈される。医学生が研修病院を最適に選ぶ基準として、研修医評価がシステムとして確立されている病院であることが重要ポイントであると指摘されている<sup>12)</sup>。研修医の評価には、様々な側面があるが、本学附属病院に特徴的な研修医評価の一つに電子カルテ上の診療録に対するチャート・レビューシステムがある<sup>13)</sup>。まだ経験や知識の足りない研修医が書く診療録を形成的評価してい

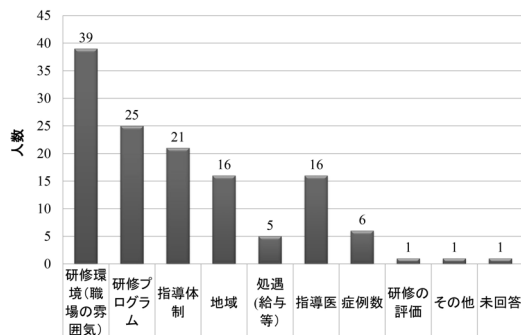


図5 アンケート：あなたが研修病院を選ぶ基準は何ですか？(複数回答)

くことは、初期研修には欠かせない指導であると考えられる。

#### 5) 将来いつの時期まで見据えて研修病院を選択するか(図6)

初期研修修了までと回答したのは50%と多く、後期研修を含めて研修修了までと考えている学生は29%であった。初期研修と後期研修を別の基準で選択する考え方は、極めて理にかなっている。初期研修と後期研修では目的が違うからである。医師としての基本を学ぶ初期研修中は今しか経験できない診療行為を優先すべきであり、将来専門としたい診療科以外の研修を充実させていく選択が望まれる。専門診療科に進んだときに、その経験が大きな財産になると思われる。また、新たな専門医制度を視野に入れた場合、後期研修までを見据えた研修病院選択も今後は重要になってくるとと思われる。

#### 6) ブース訪問数

今回34のブースが出展したが、訪問数は2～3診療科が40.8%、4～5診療科が36.7%であり、6診療科以上のブースを訪問した学生は8.2%にとどまった。より多くのブースが訪問できるような開催時間の設定や、ブース配置の工夫が必要である。

#### 7) ミニシンポジウムは役立ったか

会場アンケート回答者のうち、ミニシンポジ

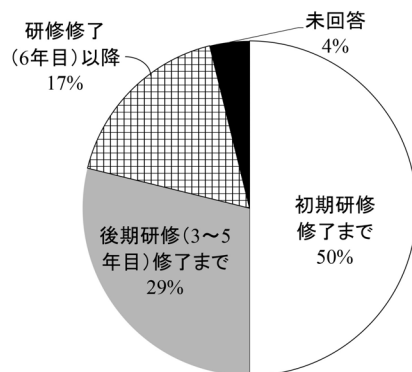


図6 アンケート：将来いつの時期を見据えて研修病院を選択しますか？

ウムに参加した学生は69.2%（来場者の約70%と考えられる）であったが、全員が役立ったと感想を述べた。参加できなかった学生は、ミニシンポジウムの内容に興味がなかったのではなく、スケジュールが合わなかったとの意見であった。学生と研修医しか参加できない企画は秀逸であり、より参加しやすいタイムスケジュールを考えていきたい。

8) 本学附属病院での初期研修は選択肢の一つであるか（図7）

「はい」と回答したのは61%であり、「まだわからない」と回答したのが35%を占めた。多くの学生が5年生から6年生にかけて休みを利用して他の研修病院に見学に行くが、意外に母校の附属病院については知らないことが多いと推測される。アンケートの自由記載欄には、3～4年生の頃に参加したかったというマッチング願書提出後の6年生の意見もあった。「まだわからない」との回答は、本学附属病院のことをもっと知りたいという意味も含まれると解釈される。

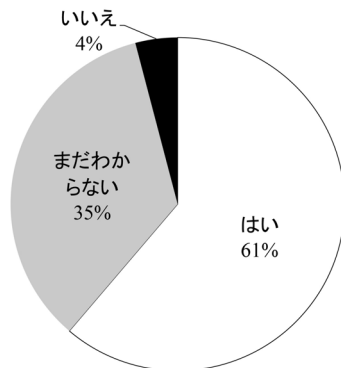


図7 川崎医大附属病院での初期研修も選択肢の一つである。

## 5. おわりに

学生の進路支援検討小委員会が設置された初年度に、本学学生を対象としたブース形式の診療科別説明会を初めて開催した。全国の大学病

院、臨床研修病院では研修医に選ばれる病院を目指して様々な取り組みがおこなわれている<sup>14)</sup>。本学附属病院においても、ここ数年で研修医オリエンテーションの改革<sup>15)</sup>、各種ワークショップの開催<sup>16)</sup>、女性医師ワーキンググループやワークライフバランスワーキンググループの立ち上げ<sup>17)</sup>、などに力を注いできた。しかしながら、これまでは学生が母校の附属病院の現状を詳しく知る機会は少なかったと言わざるを得ない。

近年、地域医療に従事する意欲のある学生を対象とした入学者選抜枠が医学部に設けられている。本学においては、平成28年度から地域枠入学学生の本学附属病院での研修が本格的に始まる。地域枠以外の学生を含めて、在学中、特に低学年からの進路支援が今後ますます重要になってくると思われる。今回の試みを、身近に附属病院スタッフや先輩研修医と交流できるイベントとして育てていくことで、本学附属病院及び附属川崎病院において初期研修を希望する学生の増加を促進する目標（効果）が達成できると期待される。

## 謝辞

本稿を終えるにあたり、ブース形式診療科別説明会の開催にご協力いただきました川崎医科大学事務部学生課の皆様には、心から感謝いたします。

## 参考文献

- 1) 医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について. 医政発第0612004号.  
URL:<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/rinsyo/keii/030818/030818a.html> (2015. 9. 14)
- 2) 猿田享男：マッチングシステムの成果と課題. 日医雑誌 138：2031-2035, 2010

- 3) 厚生労働省医政局. 平成26年度の医師臨床研修マッチング結果. 平成26年10月23日.  
URL:<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10803000-Iseikyoku-Ijika/0000062060.pdf> (2015.9.14)
- 4) 児玉龍彦: 多死社会に求められる医師養成 - 初期臨床研修制度2010年改革への懸念 -. 医学のあゆみ 233: 179-183, 2010
- 5) レジナビ | 医学生・研修医のための臨床研修情報サイト  
URL:<http://www.residentnavi.com/> (2015.9.14)
- 6) マイナビレジデント 医学生・研修医のための総合情報サイト  
URL:<https://resident.mynavi.jp/> (2015.9.14)
- 7) NPO法人岡山医師研修支援機構  
URL:<http://www.ishikenshuushien.com/> (2015.9.14)
- 8) 研修病院合同説明会 レジナビフェア スプリング2015 in 東京 終了イベントレポート.  
URL:[http://www.residentnavi.com/rnfair/report\\_tokyo2015\\_la.php](http://www.residentnavi.com/rnfair/report_tokyo2015_la.php) (2015.9.14)
- 9) 研修病院合同説明会 レジナビフェア 2015 in 福岡 終了イベントレポート.  
URL:[http://www.residentnavi.com/rnfair/report\\_fukuoka2015.php](http://www.residentnavi.com/rnfair/report_fukuoka2015.php) (2015.9.14)
- 10) 研修病院合同説明会 レジナビフェア 2014 in 東京 終了イベントレポート.  
URL:[http://www.residentnavi.com/rnfair/report\\_tokyo2014\\_02.php](http://www.residentnavi.com/rnfair/report_tokyo2014_02.php) (2015.9.14)
- 11) 一般社団法人日本専門医機構 専門医制度整備指針(第1版).  
URL:[http://www.japan-senmon-i.jp/document/program\\_01.pdf](http://www.japan-senmon-i.jp/document/program_01.pdf) (2015.9.14)
- 12) 安藤裕貴, 錢 瓊毓: 研修病院選びかた御法度. 東京, 三輪書店. 2010, pp20-34
- 13) 和田秀穂, 村上龍文, 林田武継, 他: 川崎医科大学附属病院チャート・レビュー小委員会の活動報告. 川崎医学会誌一般教養篇 38: 17-24, 2012
- 14) 宇都宮広志, 藤崎智明, 竹田喜久恵, 藤渕由紀: 研修医に選ばれる病院を目指して - 臨床研修を支援する教育研修部門の役割 -. 日赤医学 65: 404-407, 2014
- 15) 和田秀穂, 西村広健, 横須賀公彦, 林 宏明, 作田建夫, 中田昌男: 川崎医科大学附属病院における次世代臨床研修医オリエンテーション. 川崎医学会誌一般教養篇 39: 15-25, 2013
- 16) 和田秀穂, 園尾博司: 医事課ワークショップを通じて育むホスピタリティマインド. 川崎医学会誌一般教養篇 40: 27-36, 2014
- 17) 窪田寿子, 園尾博司: 女性医師支援に対する当院での取り組み. 岡山県医師会女医部会報. 第20号. 6-8, 2015  
URL:<http://www.okayama.med.or.jp/activity/bukai/joi/kaihou/20.pdf> (2015.9.14)